

NJ素流協 News

平成30年10月10日 第165号

平成30年10月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

長野県・岐阜県で先進地視察研修を開催 ～木曾谷で木材加工工場と架線集材の現場を見る～

NJ素流協は、9月13、14日の2日間、長野県と岐阜県において先進地視察研修を開催し、組合員と役員12名が参加した。高級針葉樹材を加工する製材工場・木工工場と、架線集材により効率的な素材搬出を行っている素材生産現場を視察した。

①(株)勝野木材(長野県南木曾町)

木曾郡南木曾町(なぎそまち)

は長野県南西部、木曾谷の南端に



木曾谷の(株)勝野木材を訪問

位置し、面積の9割以上を森林が占める。木曾谷は高級針葉樹材のふるさとであり、かつて尾張藩の直轄領(留山)として、「木曾五木」

ヒノキ、サワラ、アスナロ、コウヤマキ、ネズコの保護・育成が行

われたことで名高い。現在では「マ

ルコウ・マルコク木曾ひのき」(80

年以上の「高」齢級「国」有林ヒ

ノキ)や「信州プレミアムカラマ

ツ」(長野県産の高齢級大径カラマ



勝野智明代表取締役

ツ)などのブランド名で、良質な丸太の供給を進めている。

(株)勝野木材は、昭和38年に(有)勝野木材店として設立、伐出請負、

立木購入素材生産、製材を営んできた。平成15年、株式会社組織

変更した際に山林部門を独立させ、

同社は素材仕入れ・製材販売を担うことになった。

本社工場では、天然の木曾檜や

80年以上の高齢級人工林ヒノキの

大径材を使用して、社寺建築向け

や高級住宅向けの製材を中心に行っ

ている。小径木工場ではノーマン

ツインバンドソーを導入し、自動



木曾ヒノキとカラマツで建てられたモデルハウス

化・省力化を図っている。9台の乾燥機を備え、乾燥後は精度の高い特殊な丸鋸で4面修正挽き加工を行う。これにより、狂いのない、集成材より精度の高い製品をつくることができるという。ヒノキ無垢材の「健康に良い自然素材」のイメージを大事にし、かつ一般住宅向けにリーズナブルな価格で提供できるよう努めている。

材の使用量は年間1万5千m³で、木曽官材市売協同組合から入札で仕入れる。2台のツインバンドソーで1日500〜600本の柱を挽き、年間15万本を製造している。

木曽谷の森林で、最も蓄積が多いのは実はカラマツである(国有林160万m³、民有林270万m³)。勝野社長は、「最近10年ほどは、合板向けにカラマツが盛んに伐られている。合板や集成材を否定するのではないが、山へお金を返すには材の付加価値を高めて少しでも高く売らなければ」と話す。

同社では独自の特殊な乾燥方法で、カラマツ無垢材の梁も製造し

ている。大手ハウスメーカーが国産材100%住宅を建てようとするとき、強度の点で問題になるのが梁である。同社は、輸入材に對抗できる強度を持つ国産カラマツのJAS取得に向けて、取組みを進めている。

最後に木曽のヒノキとカラマツを使用した一般住宅のモデルハウスを見学した。住宅メーカーと提携し、同社が材を供給している。

②志水木材産業(株)(南木曽町)

志水木材産業(株)(志水弘樹代表取締役)は、寿司桶、木風呂等の木製品を製造するメーカーである。同社は昭和19年、戦地から戻っ



志水弘樹代表取締役

た志水社長の祖父が、養蜂資材等の製材を行ったのが始まりである。その後、木の風呂の製造から、機械生産による寿司桶作りへと製品は増えていったが、現在でもこの3つが製品の柱となっている。

寿司桶や樽の材料として、サワラ材が用いられることはよく知られている。同社では地元の人工林(実生)サワラ材を使っているが、サワラは国有林でもヒノキに混じって出てくる程度で、安定的に供給

されているわけではないという。さらに、木曽谷ではサワラが減ってきているので、材価はヒノキと同様かそれ以上に高くなっている。



サワラ材。防湿性・加工性に優れ、かつ軽い

周辺地域の寿司桶の生産量は、10〜15年前と比べて半分に減少した。機械化された回転寿司店にとって代わられ、寿司桶を使う寿司屋が減ってしまったためである。しかし国内需要が減少した一方で、海外需要がじわじわと増えているという。アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア向けがその7〜8割を占めており、特に、日本で修行した寿司職人はよく寿司桶を使っているという。

桶や樽は、かつては職人が手作業を使って一つ一つ手作りしていたが、同社では機械化が可能な工程は機械で加工する。一方、木



機械化と職人の手仕事の合わせ技で

取り、組立て、仕上げ削りといった重要な工程は、従来どおり熟練の職人が手作業で行っている。効率的な生産でコストダウンを図り、高品質な製品を手頃な価格で提供することができているという。

なお、事務局が岩手県産のサワラの写真を持参して志水社長に見せたところ、「(桶作りに)使えそうだ」との評価をいただいた。

③平澤林産(有)作業現場 (岐阜県中津川市)

2日目は平澤林産(有) (本社長野県伊那市、平澤照雄代表取締役)の素材生産現場を訪ねた。平澤社長には、平成30年3月盛岡で開催した林業講演会で講師を務めていただいた(第159号、林業講演会特集)。

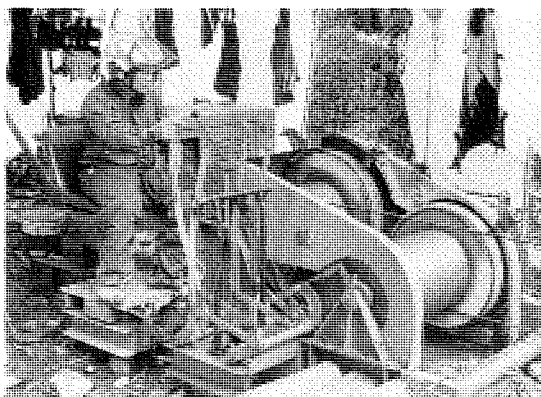
同社は昭和60年設立。平澤社長



平澤照雄代表取締役

の方針により、積極的に先進の高性能林業機械を導入して生産性の向上を図ると同時に、作業員の労働安全の確保に努めている。作業システムの中でも、架線系の搬出を最も得意とし、樹種、材積、集材距離等により集材方法を使い分けているという。

今回見学したのは、中部森林管理局東濃森林管理署湯舟沢国有林内の素材生産および保育間伐の現場で、搬出対象の総面積は約20ha、架線集材方式はコレクター集材方式である。平澤社長によれば、架線集材は初期投資がかかるが、安

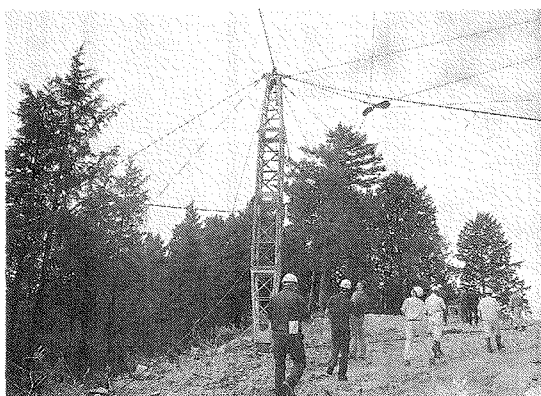


集材機

全性を守ってきちんと行えば、高効率な作業方法であり、場所によっては20haの面積からの集材が可能であるという。

設置位置の決定のためには、事前の踏査のほか、ドローンを積極的に活用し、山の形状を見ながら検討を行っている。また肉体的な負担の大きい作業を減らすために、自作の索巻き取り機を使用して本線や作業索の撤収作業を行うなど、工夫を欠かさない。

平澤社長は先の林業講演会でも述べていたとおり、社員教育を大変重視している。架線集材について



元柱人工支柱

では入社1、2年目から社員に教えており、23名の現場従事者のうち、10名以上が架線作業主任者資格を取得している。また、労働安全のために、新しく状態のよい器材を使用することが重要と考えており、林野庁が開発した油圧式の次世代型集材機は安全性が高く、魅力的な機械と考えているのとこのとであった。

伝統的林業地において、たゆまず高効率化と質的向上に努める現場を見ることができた。視察を受け入れてくださった各社の皆様に厚く御礼申し上げます。



コレクター搬器で材を吊上げ

トピックス

林野庁研究指導課長が 多機能林業機械「ハイ ランダー」視察

9月4日、林野庁森林整備部森谷克彦研究指導課長ほか本庁職員2名が多機能高性能林業機械稼働状況調査のため岩手県を訪れ、組合員(株)柴田産業(一戸町)が所有するホイール型ハーベスター「ハイランダー」の使用状況を視察した。

同機はオーストリア、コンラッド社製の最新鋭機械で、伸縮可能なホイールベアス、操縦席の水平維持機構、高い車高(最低地上高680㎜)等を備えることにより、急勾配や伐根等に影響されずに林内を走行し、枝払い、伐倒、木寄せ、玉切り等の作業を行うことができる。日本で導入事例は未だ少ない。

鉄鋼スラグを利用した 簡易舗装を視察

当組合は岩手南部森林管理署遠野支署管内の国有林において9月11日、「鉄鋼スラグを利用した簡易舗装に係る現

地視察」を開催した。当組合役職員のほかバイオマス発電所関係者が参加し、鉄鋼スラグ製品「カタマSP」を用いた林業専用道の舗装工事を視察した。



散水・転圧により固化し、時間経過で強度が増す

鉄鋼スラグとは、鉄や鋼の製造工程で、不純物を取り除いた際に副産物として生成されるもので、水と反応して固まり(水硬性)、時間とともに強度が向上することから、コンクリートの骨材や道路の路盤材としてリサイクル活用されている。林道等の舗装に使用した場合、散水と転圧という比較的簡単な作業で施工でき、工期の短縮、維持管理費用の低減、防草効果が期待できるとされる。

今回の視察は、バイオマス発電所の燃

料用原木保管ヤード等の舗装に活用できるかを検証するため、木材運搬車や重機が走行した場合の耐久性等についても今後確認することとしている。

いわて林業アカデミーで 講義・現場研修を実施

当組合は平成30年度いわて林業アカデミーのサポートチームとして、9月20、21日2日間のカリキュラム「林業経営の基礎」を担当し、木材価格や流通の仕組みについて講義と現場研修を行った。

1日目午前の室内講義では、鈴木理事長と高橋常務が木材の流通・加工やN J素流協の業務について講義を行った。午後の現地研修では、岩手県紫波町内の組合員(株)イワリン所有林において、吉田経営企画課長がN J素流協の再造林の取組み等について解説した。

2日目は岩手南部森林管理署の山元土場や、組合員(株)古里木材物流の中間土場・事務所において、丸太の巻き立て、検知、トラックへの積み込みなどの現場作業や、原木運搬トラックの装備等について各事業者から学んだ。

「木質バイオマス証明ガイドライン勉強会」に出席

9月4日、岩手県民会館において、県林業振興課主催による勉強会が開催され、組合員および職員が出席した。(一社)日本木質エネルギー協会の前川洋平氏から、木質バイオマス証明の全国現地調査結果に基づき、林野庁制定ガイドラインに抵触する事例や、工夫している事例についての講義があった。参加者からの実情の報告や質疑応答も交え、自身の濃い勉強会となった。

カラマツの球果採取を実施

当組合では、カラマツ種子の不足に協力するため、平成28年から球果採取に取り組んでおり、今年も9月5日～6日に岩手町、八幡平市において実施した。今年には豊作年に当たり、米袋(30kg)で8袋の球果が採取でき、岩手県山林種苗協同組合に提供した。

着果カラマツの情報提供と伐倒をご協力いただいた横澤林業(株)(岩手町)、(株)小笠原林業(八幡平市)の2組合員には、深く感謝申し上げます。

しいたけ原木が足りません！情報提供を！！

第1回しいたけ原木供給連絡会議が9月11日岩手県公会堂において開催され、県林業振興課から31年春植菌用原木が約11万2千本不足していること、昨年と比較して不足本数が約3万8千本増加したことが報告された。

当組合に対して、原木生産が可能なナラ林の情報提供について要請があったことから、情報をお持ちの組合員は経営企画管理部の竹田まで連絡願います。

優良工務店の会
「コミュニケーションプラザ」で講演

(一財)住宅産業研修財団・優良工務店の会は9月21日、東京都千代田区において恒例の研修会「第230回コミュニケーションプラザ」を開催し、当組合鈴木理事長が「素材流通の現場から見る現状と展望」と題して講演した。

フォレストワーカー
研修で鈴木理事長が講義

岩手県林業技術センターで行われている平成30年度「緑の雇用」フォレストワーカー3年次集合研修で9月26日、「事業所経営の展望」と題して、鈴木理事長がN J素流協の仕組みや組合員の事業展開例を紹介しながら2時間の講義を行った。

おすすめの本

「みぢかな樹木のえほん」



編：公益社団法人 国土緑化推進機構
 絵：平田美紗子
 発行：ポプラ社 定価：2500円＋税
 身近な樹木30種を取り上げて、樹木と生きものとのつながり、樹木とくらしのつながりについて、イラストやマンガを用いて、分かりやすく紹介しています。お子さんと一緒に「読書の秋」にうってつけの絵本です。絵を担当された平田美紗子さんは、ご存知のとおり現役の林野庁職員。

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成30年9月20日(木)
 市場：岩手北部森林管理署 (参加者人数 8名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
102-1	カラマツ	4.00	14-18	3等・込	283	25.710	4	根花
102-2	カラマツ	4.00	14-18	3等・込	305	28.606	4	根花
102-3	カラマツ	4.00	14-18	3等・込	513	49.234	4	根花
102-4	アカマツ	2.00	16-34	込	468	44.791	6	上坊山
102-5	アカマツ	2.00	16-32	込	527	50.784	6	上坊山
102-6	アカマツ	2.00	16-34	込	429	41.504	6	上坊山
102-7	アカマツ	2.00	16-32	込	339	32.865	6	上坊山
102-8	アカマツ	2.00	16-34	込	618	57.247	6	上坊山
102-9	アカマツ	2.00	16-34	込	511	51.042	7	上坊山
102-10	アカマツ	2.00	16-34	込	708	70.292	7	上坊山
102-11	アカマツ	2.00	16-34	込	464	48.417	6	上坊山
102-12	アカマツ	2.00	16-38	込	455	48.198	6	上坊山
合計						548.690		

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成30年9月27日(木)
 市場：岩手南部森林管理署 (参加者人数 12名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
602-1	スギ	3.00	18-28	中玉	136	21.223	5	長橋
602-2	スギ	4.00	9-13	込	427	23.424	1	志賀来
602-3	スギ	4.00	10-13	込	132	7.682	1	志賀来
602-4	スギ	4.00	14-16	込	486	43.140	3	志賀来
602-5	スギ	4.00	18-34	込	214	41.232	3	志賀来
602-6	スギ	2.00	18-36	込	311	28.311	2	志賀来

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
602-7	スギ	2.00	18-34	込	433	44.823	5	中ノ林
602-8	スギ	2.00	18-36	込	662	61.894	5	中ノ林
602-9	スギ	2.00	18-38	込	436	42.073	5	中ノ林
602-10	スギ	2.00	18-42	込	390	37.732	5	中ノ林
602-11	スギ	4.00	11-13	込	159	9.102	3	台川
602-12	スギ	4.00	11-13	込	333	20.104	4	台川
602-13	スギ	4.00	11-13	込	131	7.998	3	台川
602-14	スギ	4.00	11-13	込	165	10.560	4	台川
602-15	スギ	4.00	14-16	込	233	20.718	5	台川
602-16	スギ	4.00	14-16	込	596	52.728	5	台川
602-17	スギ	4.00	14-16	込	110	9.252	4	台川
602-18	スギ	4.00	14-16	込	333	30.078	5	台川
602-19	スギ	4.00	18-28	込	97	16.834	4	台川
602-20	スギ	4.00	18-28	込	181	31.242	4	台川
602-21	スギ	4.00	18-24	込	32	4.662	3	台川
602-22	スギ	4.00	18-26	込	126	19.758	4	台川
602-23	スギ	4.00	18-32	込	186	34.532	4	台川
602-24	スギ	4.00	18-32	込	291	53.984	4	台川
602-25	スギNA	2.00		原料材		50.501	5	台川
602-26	スギNA	2.00		原料材		39.463	5	台川
602-27	スギNA	2.00		原料材		12.285	5	台川
602-28	スギNA	2.00		原料材		60.795	5	台川
602-29	LA	2.20		原料材		12.589	6	台川
602-30	LA	2.20		原料材		35.668	6	台川
602-31	LA	2.20		原料材		26.722	6	台川
合計					6,600	911.109		

ちよつと気になる木の話

27

川上・川中・川下の
連携は何故できないか？

— 柱角林業全盛時代に —

川上・川中・川下の連携が必要と言われる。その真意は「できていないから」であることは明白である。何故できなかったのか考えてみよう。

困った時に、業界同士ではなく行政に木材調査の電話が入る。その事例からいくつか紹介しよう。

まず、神戸の葬儀屋さんからである。エコ時代に入り、環境問題に関心のあった人の葬儀にダンボール棺桶の注文が多いが、環境にやさしい間伐材の棺桶をお勧めしたいと考え、木材問屋や製品市売会社に注文した。ところが、そんな棺桶材料の木材は扱っていないところから即座に断られたと。何とか紹介して欲しいと言う。原木市場から製材所を紹介してもらった。

次に楽器メーカーから。マニア向けの最高級スピーカーを100セット作りたい。材料はオノオレカンバにした

いが、誰に注文したらいいのか全くわからないので、特別に国有林で伐って欲しいと言う。広葉樹専門の工場でもオノオレカンバを持っている会社を紹介した。

更に家具会社から。様々な国産広葉樹の特別注文が入るが、木材問屋には在庫がないので、広葉樹の原木市場がどこにあるのか教えて欲しいと言う。そして、賃挽きしてくれる工場がないので、自社で製材工場を作りたいと。県庁に相談するよう、人を紹介した。

最後に、蒲鉾製造会社からである。蒲鉾の板にする国産モミがなく、ヨーロッパモミにしているが、国産材で調達できないか、である。蒲鉾板を作っている工場と製品開発のコラボを提案した。

他にも、一刀彫のイチイ、クリスマス時期にデパートのウインドウディスプレイ用の白樺の枝、シイタケ種駒用の国産ブナ等、多種多様な相談が寄せられている。

何故、このような相談が多数寄せら

れるかである。製品市場・問屋が忙しすぎて相談に乗る暇がないかといえば、そんな感じではない。単純に、木材の二次加工業界と木材業界間の絆が切断されていて、相談窓口が全くわからなからだと思える。どうしてこうなってしまったのだろうか。

それは、戦後住宅用の木材需要が拡大して、住宅用製材だけで活況を呈したからだと思う。新築住宅200万戸時代では、その住宅用でさえ国産材だけでは対応できず、梁、土台等を外材製品に譲っても、柱角だけで需給を十分満たしていたのである。そのため、原木市場でも芯持ち柱角用16×22cmの丸太、割角用の36cm上の丸太が中心となって活況だったのである。柱取り用丸太から上の階級は、中目丸太と言われ外材に市場を奪われていたため用途が少なく、ログハウス活用の契機ともなったことが思い出される。

こういう状況だったので、川下からのニーズは住宅用の一つしかなく、川中もそれに応え、川上もまたそれに応えるということになる。とすれば、連携の必要性は全くなく、決まった丸太・

製品を供給すれば十分だったのである。川下のニーズの伝達は必要なかったといえる。先ほど挙げた相談事例のような業界ニーズの把握は要らず、絆は完全に分断されてしまったのである。

ここで、国産材回帰の時代に、再び関係構築が必要である。その主役は、本来は製品市場・問屋であるべきである。しかし頭の中は柱角林業時代から全く変わっていない。欲しい人が欲しい物を供給しなければ、活況を呈し得ないと思われる。最近でも、鉄道覆工板、仮囲い、土木用長杭等様々なニーズは健在である。もう一度、住宅以外の分野のニーズを捉まえ、関係を再構築しなければならぬだろう。非住宅分野でも住宅用以外の品目は全く同じ状況にある。

そういえば、某製品市場で、今人気の柁平を曲げわっぱ業者が買っていくという。「そうだよね」と、柁目の無節である。真に、こうしたことが現実である。

平成30年9月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	9,825	87.3	93.7	14,318	149.5	129.3	24,142	115.9	112.0
カラマツ	4,632	96.1	155.8	85	40.3	10.1	4,717	93.7	123.7
アカマツ	2,569	74.1	94.6	0	*	0.0	2,569	74.1	85.2
その他	111	*	*	435	162.4	162.0	546	204.0	203.4
合計	17,137	87.7	106.0	14,837	147.6	118.9	31,974	108.1	111.6

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	9,527	115.3	175.8
カラマツ	1,805	69.1	82.7
アカマツ	450	63.9	28.2
その他	116	100.6	85.3
合計	11,899	101.7	127.4

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃料用 (t)
スギ	65,422	72,459	137,880	46,529
カラマツ	21,108	1,283	22,391	10,419
アカマツ	17,210	0	17,210	7,926
その他	111	1,770	1,881	849
合計	103,851	75,512	179,363	65,724
目標達成率 (%)	49.5	52.1	50.5	52.6
計画量	210,000	145,000	355,000	125,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成30年9月の需給動向】

- 合板用・集成材用原木の引き合いが、さらに強まる。特にスギ・カラマツ不足している。
- 製材用原木も引き合いが強まり、価格が値上がり傾向。虫害時期も終わり供給量が増加予定。
- 燃料用原木は順調に出材されており発電所在庫も安定している。10月以降はアカマツが増量。

耳からウロコ

カタカナ、ローマ字社名の由来

「セイホクグループって何の意味？」

日本の企業名は漢字表記が多く、名字・地名の由来が多い。しかし、現在はカタカナ、ローマ字標記も多く、そのため、この由来って何だろうと考える企業もある。

TOTOは東洋陶器、INAXは伊奈製陶と古い人ならすぐわかる。木材関連企業でも、ニチハは日本ハードボード工業、イワフジは岩手富士産業であることはわかる。会社名を短縮した形である。トーセンもそうかなというところ、社長の名字が「東泉」であり、読みをカタカナにしたものである。サイプレス・スナダヤの「スナダヤ」も同じである。元々米ヒバ製材大手であったが、ヒノキに比重を移している。しかし、米ヒバもヒノキも学名はサイプレスなので、社名とは一貫している。

この両者とは異なり、予測し難

いのがセブン工業である。セブンとは何かな？元々は岐阜県加茂郡七宗町にあった丸七住研工業である。なるほど「七」がセブンかと。

ウッドワン、ウッドフレンズ等は、社名の意味は別の意味でなんとなくわかり易い。

それでは、セイホクグループのセイホクとは何だろうか？創業者は井上博氏であり名字ではないし、創業地も東京都足立区で、地名由来ではない。セイホクベニヤ工業は皇居から見れば東北方向であり、西北方向ではない。聞くとところによれば、井上氏は早稲田大学卒業だという。そうか！「都の西北、早稲田の森に！」これだ。思い入れが深い、意外な由来である。

セイホクベニヤ工業の流れは、都の東北にあったので東北に進出して、宮古、大船渡、秋田、男鹿、石巻と定着してきたのかもしれない。セイホクグループが東北を一番の地盤としている。カタカナ社名から、別の感慨である。